

応用認知言語学と英語教育

大阪教育大学 谷口一美

日本英文学会第82回大会 シンポジウム第6部門
(2010年5月29日)

認知言語学的アプローチによる 外国語(英語)教育

主にツール:

コア理論(田中茂範)
イメージ英文法(大西泰斗・マクベイ)

主に理念:

応用認知言語学、Focus on Form (FonF)
(Achard, Littlemore, 荒川・森山)

Focus on Form (FonF)

伝統的教授法 “focus on form”
(トップダウン)

↓

コミュニカティブ教授法 “focus on meaning”
(ボトムアップ)

↓

FonF: 基本的にはボトムアップ
形式と機能の対応を学習者に気付かせる

理論的な応用

- ・使用基盤モデル (usage-based model)
- ・プロトタイプ・カテゴリーの形成
- ・メタファー・メトニミーによる拡張
- ・抽象化とスキーマ形成

荒川・森山(2009)による提言

1. ボトムアップのプロセス重視
2. 反復的な言語使用の重視
3. 形式と意味のマッピング強化
4. 学習者のニーズの重視
5. 認知的要因の重視
6. 認知能力の重視
7. カテゴリー構造とその再編成の重視
8. 語彙学習の側面の重視
9. 百科事典的意味の重視
10. 言語の類型論的特徴の重視

L1とL2の習得の相違

- ・L1: ボトムアップ、段階的
(抽象化の認知発達に伴い規則を産出)
自然な言語習得環境
誤用訂正なし
- ・L2: ある程度トップダウンが可能
母語からの影響
教室での学習
誤用訂正あり

(荒川・森山 2009: 127)

言語による相対性

認知的レベル
 (例) 主観的把握・客観的把握
 経験的レベル
 (社会文化的要因)
 言語的レベル
 verb-framed/ satellite-framed
 (例) The bottle floated into the cave.

語彙習得への応用

L2における語彙

Vocabulary breadth … 語彙数
 Vocabulary depth … 語の多義性
 Network knowledge … 語・意味の関係性

プロトタイプ・カテゴリー理論による
 アプローチが有効。

Littlemore (2009)

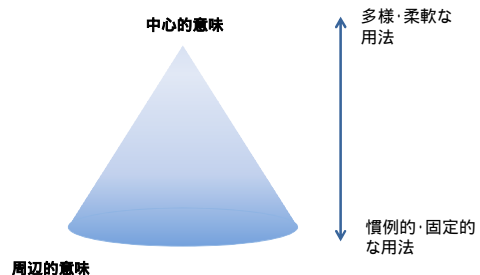
中心的意味と周辺の意味の振るまいの違い

- ・周辺の(比喩的)意味は言語によって異なる
 (拡張パターンの相違)
- ・周辺の意味は**語法が固定的、慣用的**
 (中心の意味はさまざまな語法で使用可能)

(例) 身体部位詞

- ・言語によって比喩的拡張の範囲が異なる
 head (of a page, of a department, of a beer, of a flower)
 先頭、頭取
- ・言語特有の比喩的拡張
 「腹」(腹案、中腹、指の腹)
- ・慣用的表現
 鼻が {高い / #低い}
 鼻を {折る / へし折る / #粉々に砕く}

放射状カテゴリー



課題 プロトタイプの設定

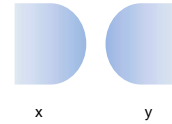
- 語源的な中心義
- 習得における中心義(最初に獲得)
- 使用における中心義(高頻度)

コーバスの利用 (Littlemore 2009)

課題 適切なスキーマの設定

田中他 (2006):

toのコア図式: 相対する関係



- Face to face
- 95 yen to the U.S. dollar

問題点

類似したコア図式を持つと考えられる
他の前置詞との区別 (with など)

すべての意味・用法をあらかじめ知っていなければ
適用が困難
(cf. 荒川・森山 2009: 95)

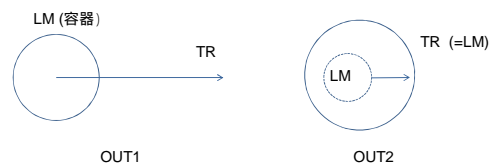
すべての事例を網羅する「スーパースキーマ」の設定が
妥当かどうか

「…言語の習得は具体的な用例からボトムアップに
進行していく。つまりイメージの抽出も規則の抽出と
同様、具体的な用例に触れながら少しずつボトム
アップに形成されていくわけである。だから授業では、
そのイメージをトップダウン的に示すこと以上に、
学習者にできるだけ幅広い用例に触れてもらい、
それらの用法から、学習者自らがその語の共通の
イメージ(スキーマ)を見いだしていくことをサポート
するのが大切になるだろう。」

(荒川・森山 2009: 96、下線は引用者)

事例研究: 不変化詞の多義性

Johnson (1987) : Outのイメージ・スキーマ



Get out of the car
Tear out the cartoon
Bow out of the contract [metaphorical]

Pour out the beans
Hand out the information
Let out your anger [metaphorical]

イメージ・スキーマの定義

Johnson (1987: xix)

.... Human bodily movement, manipulation of objects, and perceptual interactions involve recurring patterns without which our experience would be chaotic and incomprehensible. I call these patterns "image schemata," because they function primarily as abstract structures of images.

身体性に基づくイメージ・スキーマ (embodied schema)

UP の多義性

・大阪教育大学教養学科 英語専攻2回生 12名

・2009年11月～2010年1月

・プログレッシブ英和中辞典
"up" (副詞) の13項目について

- 1 (1) (低い位置より) 高い方へ[に], 上方へ[に]; (地面・床などから) 離れて上へ[に]; (土・水中などから) 表面へ[に] (down)
- (2) (横になっているものなどを) 立てて, 起こして; 直立して, まっすぐ; (建造物が) 建てられて
- (3) 水平[地平]線上に, (空に) 昇って
- 2 (地理・地図上の) 北の方へ[に]; (川の) 上流へ[に]; (沿岸より) 奥地[内陸]へ[に]; ((英) 中心地[都会]へ[に], ロンドンへ[に])
- 3 (ある場所・人・自分の方に) 向かって, 近づいて((to ...))
- 4 (地位・価値・程度などが) 高まって, 上がって, (大きさ・速度・音量・明るさなどが) 増して, 強まって, 成長して, 大きくなって
- 5 起きて, 目を覚まして
- 6 (競走・競技で) リードして, 勝ち越して; (賭博(とば)などで) (お金を) かせいで
- 7 (1) 遅れないで; 追いついて
(2) ((略式)) ((しばしばwellに伴って)) (学科・技術などに) 精通している, よくできる((on, in ...))
- 8 勢いよく, 元気に, 活気づいて; 機械・コンピュータなどが 作動して
- 9 完全に, すっかり; ...し尽くして; (時間が) 尽きて
- 10 (物事が) 出現して, (目に) 見えて, 現れて; (議題に) のぼって((for ...))
- 11 保管[貯蔵]して
- 12 合計した[結び合わせた, 閉じた]状態へ[に]
- 13 停止[休止, 無活動]の状態へ[に]

タスクの流れ

空間的用法からイメージ・スキーマを設定



その他の非空間的用法の関連づけ



Upの多義ネットワークの構築



イディオムへの応用

空間的用法

「上方へ」
「(低い位置より) 高い方へ」

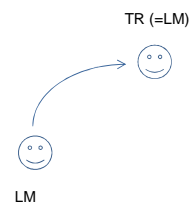
climb up to the top of a ladder
the fish swam up for crumbs.
the moon came up.
drive up from Los Angeles to San Francisco
sail up



空間的用法

(TR自体のポジション)
「起こして、直立して」

Stand up
His new house isn't up yet.



空間的用法

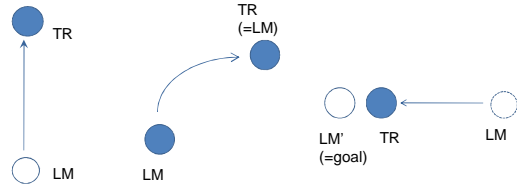
(自分・ある場所へ)
「向かって」「近づいて」

A girl came up to me.
Go straight up to the door.



上下の位置関係がない
LM' = 自分の意識の中心、特定のgoal

Up のイメージ・スキーマ



スキーマ スキーマ スキーマ

3種類のスキーマを仮定し、グループワークで他の用法を分類。

スキーマ + 概念メタファーによる拡張

MORE IS UP

- turn up the radio
- bring up children

HAVING POWER/CONTROL IS UP

- move up in a firm
- go up to London

スキーマ + (概念)メタファーによる拡張

CONSCIOUS IS UP

- wake up; sit up all night

HAPPY IS UP; HEALTH IS UP

- cheer up;

人からモノへの拡張

- start up an engine
- set up a new foundation

スキーマ + メタファー的拡張



Goal = 現在、最新の状態 (Moving Time Metaphor)

- keep up with; well up on pop music

Goalの達成 = 行為の達成、完了 (Event Metaphor)

- eat up; burn up; finish up

意味のネットワーク作成

グループワークでの検討結果に基づき、
個人で「意味の地図」を作成。

UPを含むイディオム

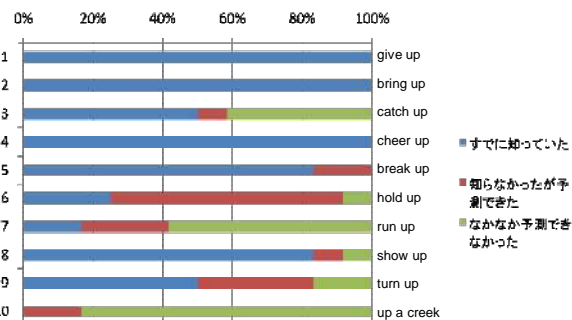
- (1) He tried to stop smoking, but found it hard to give up.
- (2) She brought the children up by herself.
- (3) He has been sick and needs some time to catch up.
- (4) She needs someone to cheer her up.
- (5) The girl cried when she broke up with her boyfriend.
- (6) The bike is in good shape now, but I don't know how long it will hold up.
- (7) He made a lot of long-distance calls and ran up my phone bill.
- (8) We will leave early if everyone shows up on time.
- (9) Turn the radio up; this is a great song.
- (10) My partner disappeared with all my money and now I'm up a creek. (creek = 入り江)

・(1) ~ (10) の意味を回答

・(1) ~ (10) のイディオムが、UPの意味・用法のいずれに関連するかを回答

・アンケートに回答

(イディオムを知っていたか、
知らなかった場合、どの程度予測できたか)



提言

認知言語学的なツール(イメージ・スキーマ)は語彙習得において、意味表示の手段として有効性を発揮し得るが、その設定にあたっては **理念的なベース**が必要。



多義性・意味拡張のメカニズムへの理解が求められる

主要参考文献

- Johnson, Mark (1987) *The Body in the Mind. The Bodily Basis of Meaning, Imagination, and Reason*. University of Chicago Press.
- Littlemore, Jeannette (2009) *Applying Cognitive Linguistics to Second Language Learning and Teaching*. Palgrave Macmillan.
- Robinson, Peter and Nick C. Ellis (eds.) (2008) *Handbook of Cognitive Linguistics and Second Language Acquisition*. Routledge.
- 荒川洋平・森山新 (2009) 『日本語教師のための応用認知言語学』, 凡人社.
- 和泉伸一 (2009) 『フォーカス・オン・フォームを取り入れた新しい英語教育』, 大修館書店.
- 大西泰斗・ポール・マクベイ (2009) 『イメージ英文法』, DHC.
- 田中茂範・佐藤芳明・阿部一 (2006) 『英語感覚が身につく実践的指導: コアとチャンクの活用』, 大修館書店.